

1. 農学部総合農業科学科の各コースの説明

総合 農業 科学 科	農芸化学コース	生命現象を化学的視点で理解する能力を養うとともに、微生物、植物、昆虫、ヒトを含む動物由来の代謝産物、糖鎖、脂質、タンパク質（酵素）、遺伝子などを分子レベルで研究することにより、生物資源や生物機能を人間生活に役立てるバイオサイエンスやバイオテクノロジーの基礎と応用を修得する教育コース。
	応用植物科学コース	農業生産の基盤をなす植物を対象として、有用機能の解析や遺伝的改良、植物病害の発病・防御応答機構の解明とその制御、生産力を安定かつ最大限に発揮させるための栽培管理技術、さらに、生産物の効率的な流通・貯蔵に必要な技術などの研究と開発に関する基礎と応用を修得する教育コース。
	応用動物科学コース	各種動物の成長と繁殖、物質生産に関わる生命現象や諸機能を理解する力を養い、効率的な動物生産技術の開発や畜産食品の品質、保蔵、加工に関する理化学的、微生物学的技術開発、健康・医療支援などの動物生命科学領域の発展に寄与する基礎と応用を修得する教育コース。
	環境生態学コース	地域レベルから地球レベルまでを対象として、環境保全、生態系の維持と解明、食料と資源の持続的確保、および効率的な生物生産システムの開発をめざした国際的視点に立って活躍できる人材を養成するために、生態学、進化学、社会学、経済学、そしてシステム工学の基礎と応用を修得する教育コース。
附属山陽圏フィールド科学センター		
生物圏を総合的に考察するための科学であり、農学の基盤となる「フィールド科学」に関する教育・研究を実践するために設けられた附属施設である。学生の実習教育やプロジェクト研究の推進を担う教育研究部と地域と連携して実践的な農業・農学の展開を担う技術部からなる。津島キャンパス内の岡山農場を中心に和牛の繁殖を行う津高牧場と大規模水田稲作を展開する八浜農場から構成されている。		

(研究ユニット) ※

天然物有機化学・・・天然由来の生理活性物質の合成とその有効利用
生理活性化学・・・生理活性物質の探索と細胞・酵素による生産
食品生物化学・・・高機能性食品の創製に関する生物化学的研究と応用
生物情報化学・・・植物の環境ストレス応答と情報伝達機構の解明
微生物化学・・・微生物の代謝機能の解明と環境および物質生産への応用
細胞システム化学・・・真核細胞システムの解明と機能開発

(研究ユニット)

遺伝子細胞工学・・・植物の発病にかかわる植物と病原体の遺伝子機能の解析と応用
ゲノム遺伝解析学・・・転移因子の動態分析などによる植物ゲノム変異の網羅的解析とその応用
植物病理学・・・植物の感染症とその原理に基づく免疫制御に関する研究
植物遺伝育種学・・・植物の遺伝的多様性に関する分子遺伝学的解析と育種への応用
農産物利用学・・・農産物の収穫後生理と流通・貯蔵技術の開発
農産物生理学・・・農産食品の成熟・老化機構に関する生理学および分子生物学的解析
作物生産技術学・・・作物・雑草の生理・生態的特性の解明と管理技術の開発
果樹園芸学・・・果樹の生理・生態的特性の解明と生産技術の開発
野菜園芸学・・・野菜の生理・生態的特性の解明と生産システム開発
作物開花制御学・・・園芸作物の花成制御と養水分管理の最適化に関する研究
作物学・・・農作物の収量向上・安定および非生物ストレス耐性の解明

(研究ユニット)

動物生殖生理学・・・哺乳動物の生殖機能に関わる内分泌学的解析とその生殖制御技術開発への応用
動物生殖細胞工学・・・哺乳動物の生殖細胞の発生工学的解析による受精・発生現象の解明
動物生理学・・・有用動物の形態ならびに生理学・薬理学的な性質に基づく生理機構の解明
動物遺伝育種学・・・家畜や実験動物における遺伝機構の解明とその育種法への応用
動物遺伝学・・・動物の有用遺伝子や疾患に関わる遺伝子の解析およびその制御と応用
動物栄養学・・・食品と飼料の生体調節機能の解明とその制御ならびに利用技術の開発
動物応用微生物学・・・畜産食品の安全性と機能性に関与する微生物の探索と特性解析
生殖補助医療学・・・ヒト生殖補助医療における高度技術の構築および不妊原因疾患とそのメカニズムの解明

(研究ユニット)

植物生態学・・・植物の生態学的特性および植物群集の維持機構の解明
森林生態学・・・森林生態系の構造、機能および動態の解明
土壌環境管理学・・・土壌－植物系の物質動態解明による荒廃地緑化
水系保全学・・・水系生態系の生物多様性解析と保全技術の開発
昆虫生態学・・・昆虫の生態解明とその応用的利用
進化生態学・・・生物間相互作用と生物多様性の進化生態学的解明
生物生産システム工学・・・生物生産用機械・施設の開発およびロボット化
食料環境政策学・・・国内外における食料・環境政策に対する人文・社会科学研究
資源管理学・・・地域資源の効率的利用および資源の保全・利用計画の開発
国際農村開発学・・・国際的な視点からの持続可能な農村開発に関する研究

※令和7年度は、農芸化学コースに寄付講座 微生物インダストリーの研究ユニットが
設置されることが決まっています

微生物インダストリー・・・微生物の力を活用した未利用資源の新規利用用途の探索

3. 岡山大学農学部履修細則

(趣旨)

第1条 この細則は、岡山大学農学部規程（平成18年岡山大学農学部規程1号）第12条、第17条及び第23条の規定に基づき、岡山大学農学部における全学共通科目、英語科目及び専門教育科目の授業科目、単位数及び履修方法並びに食品衛生法に規定する食品衛生管理者及び食品衛生監視員（以下「衛生管理者等」という。）の資格取得（食品衛生資格取得コース）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(全学共通科目及び英語科目)

第2条 全学共通科目及び英語科目の授業科目及びその単位数は、履修課程表1に掲げるとおりとする。

(専門教育科目)

第3条 専門教育科目の授業科目及びその単位数は、履修課程表2に掲げるとおりとする。

(専門教育科目の科目区分)

第4条 専門教育科目は、全学交流科目、専門基礎科目及び専門科目に区分される。

- 1 全学交流科目は、社会系交流科目、自然系交流科目及び生命系交流科目に区分される。
- 2 専門基礎科目は、必修科目及び選択必修科目に区分される。
- 3 専門科目は、必修科目、コース科目選択必修科目及びコース科目自由選択科目に区分される。

(履修方法)

第5条 卒業に必要な専門教育科目の履修方法は、履修課程表2に掲げる授業科目のうちから、次に示す単位を指導教員の指導を受けて履修しなければならない。

科 目 区 分 等				単位数	
専門教育科目	全学交流科目			4	
	専門基礎科目	必修科目		18	
		選択必修科目		6	
	専門科目	必修科目		25	
		コース科目	選択必修科目		18
			自由選択科目		33
合 計				104	

- 2 専門基礎科目選択必修科目のうち卒業に必要な単位を超えて修得した単位数は、コース科目自由選択科目の単位数とすることができる。
- 3 コース科目選択必修科目のうち卒業に必要な単位を超えて修得した単位数は、コース科目自由選択科目の単位数とすることができる。
- 4 卒業論文に代えて、INAFプロジェクトを履修する場合、不足分の8単位は他の専門科目の単位をもって代替とすることができる。

(2年次への進級要件)

第6条 2年次へ進級できる者は、1年次修了時において次の科目から合計2単位以上修得している者とする。

・コミュニケーション英語（S&L） ・コミュニケーション英語（R&W）

(コース分属のための条件)

第6条の2 本学部では、2年次開始時に所定のコースに分属するため、コースに分属できる者は、2年次へ進級できるものとする。

(4年次への進級要件)

第7条 4年次へ進級できる者は、3年次修了時までに卒業に必要な単位124単位中92単位以上修得している者とする。

2 92単位のうち、専門基礎科目及び専門科目の修得単位数が68単位以上であることを必要とする。

(食品衛生資格取得コース)

第8条 本学部で衛生管理者等の資格取得のため、厚生労働大臣の指定する養成施設として食品衛生資格取得コースを置く。

2 食品衛生資格取得コースを修了した者は、衛生管理者等になることができる。

3 食品衛生資格取得コースを履修できる者は、本学部総合農業科学科の学生とする。

4 食品衛生資格取得コースの履修科目は、別表のとおりとする。

5 別表に規定する所定の単位を修得した者は、食品衛生資格取得コースの修了者とする。

6 この細則に定めるもののほか、必要な事項については、別に定める。

附 則

1 この細則は、令和7年4月1日から施行する。

2 改正後の規定にかかわらず、令和6年度以前の入学者については、改正後の履修課程表2に表記された開講年次、開講学期に関するものを除き、なお従前の例による。

4. 履修課程表

履修課程表 1 (全学共通科目及び英語科目)

科 目 区 分			必修	備考	卒業要件単位
全学共通科目	課 題 探 究	課題探究科目	3単位	知の探研 3 単位 ※ 1 参照	11単位
	情報・数理データサイエンス	情報教育科目	1 単位	情報処理入門 1 （情報機器の操作を含む） 1 単位	
		数理・データサイエンス科目	1 単位	数理・データサイエンスの基礎 1 単位	
	健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学科目		2 単位まで卒業要件算入可能	
		スポーツ演習科目			
	市 民 性 と 異文化理解	実践知科目			
		芸術知科目			
		市民性教育科目		※ 2 参照	
		言語文化科目		日本語科目は留学生のみ履修可能	
英語科目	必 修 英 語	コミュニケーション英語 (S & L)	2 単位	履修する学期と科目はクラス分けにより指定される。1 年次生全員が第 1 ・ 2 学期及び第 3 ・ 4 学期に 1 科目ずつ履修する。	9 単位
		コミュニケーション英語 (R & W)	2 単位		
		アカデミック英語 (プレゼンテーション)	2 単位		
		アカデミック英語 (ライティング)	2 単位		
	選 択 英 語	高年次英語	1 単位		
		S P A c E 英語		卒業要件外	
		キャリアパス英語			
全学共通科目及び英語科目 計					20単位

※1 履修する学期はクラス分けにより指定される。1年次生全員が第1学期に事前学習を行い、その後、学生番号末尾が偶数の学生は第2学期に、奇数の学生は第3学期に探究活動を行う。

※2 留学生支援ボランティア実習、学生支援ボランティア実習Ⅰ～Ⅳ、初等数学1～2、初等生物学1～2および初等物理学1～2の単位は卒業要件外となる。

履修課程表2

a. 全学交流科目

科目区分	必修単位	備考
社会系交流科目	4 単位	4 単位の内訳は、【自然系交流科目から1単位を必修，社会系交流科目，生命系交流科目及び自然系交流科目から3単位を選択必修】とする。 また，農学部開講科目以外を履修すること。
生命系交流科目		
自然系交流科目		

※開講授業科目及びその単位数については，教育推進機構長が学年の始めに公示する。

b. 専門基礎科目

開講年次	開講学期	講義番号	授業科目名	単位	教 員 名	備 考
1	1～2	116016	総合農業科学入門	2	担当教員	
1	1	116000	農学概論 1	1	担当教員	・全科目必修 ・全科目農学部 主要授業科目
1	2	116001	農学概論 2	1	担当教員	
1	1	116002	農生命化学 1	1	中村（宜）	
1	2	116003	農生命化学 2	1	清田	
1	1	116004	農業生物学 1	1	西野・木村	
1	2	116005	農業生物学 2	1	平井ほか	
1	1	116006	農業資源学 1	1	駄田井	
1	2	116007	農業資源学 2	1	駄田井	
1	3	116008	農芸化学コース概論 1	1	コース教員	
1	4	116009	農芸化学コース概論 2	1	コース教員	
1	3	116010	応用植物科学コース概論 1	1	コース教員	
1	4	116011	応用植物科学コース概論 2	1	コース教員	
1	3	116012	応用動物科学コース概論 1	1	コース教員	
1	4	116013	応用動物科学コース概論 2	1	コース教員	
1	3	116014	環境生態学コース概論 1	1	コース教員	
1	4	116015	環境生態学コース概論 2	1	コース教員	
1	1	116100	基礎微生物学 1	1	田村	4 科目 選択必修
1	2	116101	基礎微生物学 2	1	金尾	
1	3	116102	基礎遺伝学 1	1	西田・門田(有)・揖斐	
1	4	116103	基礎遺伝学 2	1	西田・門田(有)・揖斐	
1	3	116104	基礎分子生物学 1	1	牛島	
1	4	116105	基礎分子生物学 2	1	牛島	
1	1	116106	生態学概論 1	1	兵藤	
1	2	116107	生態学概論 2	1	宮竹	
2	1～2	115104	基礎生物学実験	2	担当教員	1 科目 選択必修
2	1～2	115105	フィールド基礎実習	2	担当教員	
2	3～4	115106	基礎分析化学実験	2	担当教員	
1	夏季集中	115600	農場体験実習	1	F S C	卒業要件外

c. 専門科目（必修科目）

開講年次	開講学期	講義番号	授業科目名	単位	教 員 名	備 考
2	1～2	116200	コース演習 1	0.5	コース教員	・全科目農学部 主要授業科目
2	3～4	116201	コース演習 2	0.5	コース教員	
3	1	116209	日本農業論 1	1	担当教員	
3	2	116210	日本農業論 2	1	担当教員	
3	1～2	116202	コース演習 3	1	コース教員	
3	3～4	116203	コース演習 4	1	コース教員	
4	1～2	116204	研究科目演習 1	1	担当教員	
4	3～4	116205	研究科目演習 2	1	担当教員	
4	1～4	116206	卒業論文	18	担当教員	
4	1～4	116211	I N A F プロジェクト	10	担当教員	・農学部 主要授業科目 ※農学部規程 第 2 3 条参照

※主要授業科目とは、大学設置基準において、本学部教育課程上主要と認める授業科目である。

d. 専門科目（コース科目）

（○は各コースにおける選択必修科目，それ以外は自由選択科目）

開 講 年 次	開 講 学 期	講 義 番 号	授 業 科 目 名	単 位	教 員 名	提 示 コ ー ス 等	農 芸 化 学	応 用 植 物 科 学	応 用 動 物 科 学	環 境 生 態 学
1	夏季集中	115429	まきばの実習	1	西野ほか	応用動物科学			○	
1	3	116302	植物生理学1	1	担当教員	応用植物科学		○		
1	4	116303	植物生理学2	1	担当教員	応用植物科学		○		
1	3	116304	植物形態学	1	担当教員	応用植物科学		○		
2・3	4	116305	植物栄養学	1	担当教員（隔年開講）	応用植物科学(R08)		○		
1	3	116306	栄養生化学1	1	荒川・鶴田	応用動物科学			○	
1	4	116307	栄養生化学2	1	鶴田	応用動物科学			○	
2	1	116308	分析化学1	1	根本	農芸化学	○		○	
2	2	116309	分析化学2	1	中村（俊）	農芸化学	○		○	
2	1～2	116494	生物化学1	2	前田・宗正	農芸化学	○		○	
2	1～2	116495	有機化学1	2	清田	農芸化学	○		○	
2	1～2	116496	応用微生物学1	2	守屋	農芸化学	○		○	
2	1	116300	植物遺伝学1	1	門田（有）	応用植物科学		○		
2	2	116301	植物遺伝学2	1	門田（有）・西田	応用植物科学		○		
2	1	116316	植物病理学1	1	豊田	応用植物科学		○		
2	2	116317	植物病理学2	1	豊田	応用植物科学		○		
2	1	116318	果樹園芸学1	1	平野	応用植物科学		○		
2	2	116319	果樹園芸学2	1	平野・河井	応用植物科学		○		
2	1	116320	栽培学1	1	田中	応用植物科学		○		
2	2	116321	栽培学2	1	田中	応用植物科学		○		
2	1	116322	農産物生理学1	1	牛島	応用植物科学		○		
2	2	116323	農産物生理学2	1	牛島	応用植物科学		○		
2	夏季集中	115320	農家体験実習	2	安場・福田（文）	FSC		○	○	○
2	1	116592	基礎生命科学1	1	舟橋	応用動物科学			○	
2	2	116593	基礎生命科学2	1	舟橋	応用動物科学			○	
2	1	116326	動物組織・形態学1	1	畑生	応用動物科学			○	
2	2	116327	動物組織・形態学2	1	畑生	応用動物科学			○	
2	3	116330	動物生理学1	1	畑生	応用動物科学			○	
2	4	116331	動物生理学2	1	畑生	応用動物科学			○	
2	1	116332	農業経営学1	1	大仲	環境生態学				○
2	2	116333	農業経営学2	1	大仲	環境生態学				○
2	1	116334	農業ロボット工学概論1	1	門田（充）	環境生態学				○
2	2	116335	農業ロボット工学概論2	1	門田（充）	環境生態学				○
2	1	116336	地域環境管理学	1	嶋	環境生態学				○
2	2	116337	生物多様性保全学	1	福田（宏）	環境生態学				○
2	1	116338	動物生態学1	1	宮竹	環境生態学				○
2	2	116339	動物生態学2	1	岡田	環境生態学				○
2	2	116341	森林保全学1	1	廣部	環境生態学				○

開 講 年 次	開 講 学 期	講 義 番 号	授 業 科 目 名	単 位	教 員 名	提 示 コ ー ス 等	農 芸 化 学	応 用 植 物 科 学	応 用 動 物 科 学	環 境 生 態 学
2	1	116564	環境経済政策学	1	生方	環境生態学				○
2	3	116452	農村社会学	1	本田	環境生態学				○
2	4	116581	地域開発論	1	金	環境生態学				○
2	3～4	116497	生物化学2	2	村田・宗正	農芸化学	○		○	
2	3～4	116498	有機化学2	2	清田	農芸化学	○		○	
2	3～4	116499	応用微生物学2	2	田村	農芸化学	○		○	
2	3	116558	生物物理化学1	1	宗正・村田	農芸化学	○		○	
2	4	116559	生物物理化学2	1	宗正・村田	農芸化学	○		○	
2	3	116348	遺伝子工学1	1	松井	応用植物科学		○		
2	4	116349	遺伝子工学2	1	能年	応用植物科学		○		
2	3～4	115327	植物育種学	2	西田	応用植物科学		○		
2	3～4	115328	花卉園芸学	2	後藤・遠藤	応用植物科学		○		
2	3	116354	果樹生産管理学1	1	福田(文)	応用植物科学		○		
2	4	116355	果樹生産管理学2	1	福田(文)・河井	応用植物科学		○		
2	3	116356	作物学1	1	平井	応用植物科学		○		
2	4	116357	作物学2	1	平井	応用植物科学		○		
2	3～4	116588	野菜園芸学	2	安場	応用植物科学		○		
2	3	116531	Vegetable and Flower Science (野菜と花の科学)	1	後藤ほか	応用植物科学				
2	3	116532	Plant Disease and Control (植物の病気と防除)	1	豊田ほか	応用植物科学				
2	3	116533	Fruit Science (果実の科学)	1	福田(文)ほか	応用植物科学				
2	3	116534	Crop Science and Production (作物の科学と生産)	1	平井ほか	応用植物科学				
2	3～4	116522	フィールド実習1	2	安場ほか	FSC		○		
2・3	集中	116360	農産食品工学	1.5	非常勤(隔年集中)	応用植物科学(R08)		○		
2	3	116361	動物生理学3	1	畑生	応用動物科学			○	
2	3	116364	動物育種学1	1	揖斐	応用動物科学			○	
2	4	116365	動物育種学2	1	揖斐	応用動物科学			○	
2	3～4	115335	動物生殖生理学	2	木村	応用動物科学			○	
3	3	116368	動物応用微生物学1	1	荒川	応用動物科学			○	
3	4	116369	動物応用微生物学2	1	荒川	応用動物科学			○	
2	3～4	115339	動物栄養学	2	西野	応用動物科学			○	
2	3	116535	Animal Production Science (動物生産科学)	1	木村ほか	応用動物科学				
2	4	116536	Food and Nutrition Science (食品・栄養科学)	1	西野ほか	応用動物科学				

開 講 年 次	開 講 学 期	講 義 番 号	授 業 科 目 名	単 位	教 員 名	提 示 コ ー ス 等	農 芸 化 学	応 用 植 物 科 学	応 用 動 物 科 学	環 境 生 態 学
2	3～4	115340	生物生産機械学	2	難波	環境生態学				○
2	4	116565	農業経済学	1	駄田井	環境生態学				○
2	3	116378	土壌環境学	1	嶋	環境生態学		○		○
2	1	116544	植物繁殖生態学	1	宮崎	環境生態学				○
2	1	116379	緑地保全学	1	三木	環境生態学				○
2	3～4	115344	農環境物理学	2	難波	環境生態学				○
2	3	116382	環境生態学コース実験1-1	1	コース教員	環境生態学				○
2	4	116383	環境生態学コース実験1-2	1	コース教員	環境生態学				○
2	3	116384	環境生態学コース実験2-1	1	コース教員	環境生態学				○
2	4	116385	環境生態学コース実験2-2	1	コース教員	環境生態学				○
2	3	116207	応用生物データサイエンス学1	1	揖斐ほか	共通	○	○	○	○
2	4	116208	応用生物データサイエンス学2	1	揖斐ほか	共通	○	○	○	○
3	1～2	116508	生物化学3	2	守屋	農芸化学	○		○	
3	1～2	116509	有機化学3	2	泉	農芸化学	○			
3	1～2	116543	応用微生物学3	2	根本	農芸化学	○			
3	1	116398	酵素化学1	1	前田	農芸化学	○			
3	2	116399	酵素化学2	1	前田	農芸化学	○			
3	1	116400	食品生化学1	1	中村(俊)	農芸化学	○		○	
3	2	116401	食品生化学2	1	中村(宜)	農芸化学	○		○	
3	1	116402	農芸化学コース実験1	2	コース教員	農芸化学	○			
3	2	116403	農芸化学コース実験2	2	コース教員	農芸化学	○			
3・4	夏季集中	116405	応用分子生物学	0.5	非常勤(隔年集中)	農芸化学(R10)	○			
3・4	夏季集中	116406	有用物質生産技術学	0.5	非常勤(隔年集中)	農芸化学(R09)	○			
3	1	116407	植物細菌病学	1	松井	応用植物科学		○		
3	2	116408	植物免疫学	1	能年	応用植物科学		○		
3	1	116409	作物発育調節学1	1	平井	応用植物科学		○		
3	2	116410	作物発育調節学2	1	田中	応用植物科学		○		
3	1	116417	植物ウイルス学	1	近藤・兵頭	応用植物科学		○		
3	2	116416	植物ゲノムダイナミクス	1	山本(敏)ほか	応用植物科学		○		
3	1～2	116591	雑草学	2	中嶋	応用植物科学		○		
3	2	116538	Crop Genetics and Breeding (作物の遺伝と育種)	1	西田ほか	応用植物科学				
3	1～2	116524	応用植物科学コース実験1	2	コース教員	応用植物科学		○		
3	1～2	116525	応用植物科学コース実験2	2	コース教員	応用植物科学		○		
3・4	夏季集中	116415	バイオインフォマティクス入門	1.5	非常勤(隔年集中)	応用植物科学(R10)		○		
3	1	116418	植物遺伝生理学	1	坂本(亘)	応用植物科学		○		
3	1～2	116523	フィールド実習2	2	中嶋ほか	FSC		○		
3	夏季集中	115376	牧場実習	2	畑生ほか(集中)	FSC			○	
3	1～2	116589	動物遺伝学	2	辻	応用動物科学			○	

開 講 年 次	開 講 学 期	講 義 番 号	授 業 科 目 名	単 位	教 員 名	提示 コース 等	農 芸 化 学	応 用 植 物 科 学	応 用 動 物 科 学	環 境 生 態 学
3	1	116328	畜産食品学1	1	荒川	応用動物科学			○	
3	2	116329	畜産食品学2	1	荒川	応用動物科学			○	
3	1	116421	動物内分泌学1	1	木村	応用動物科学			○	
3	2	116422	動物内分泌学2	1	木村	応用動物科学			○	
3	1	116423	動物発生工学1	1	若井	応用動物科学			○	
3	2	116424	動物発生工学2	1	若井	応用動物科学			○	
3	1～2	115430	動物生産管理学	2	西野	応用動物科学			○	
3	1	116425	食品栄養学1	1	鶴田	応用動物科学			○	
3	2	116426	食品栄養学2	1	鶴田	応用動物科学			○	
3	1～2	116540	応用動物科学コース実験1	2	コース教員	応用動物科学			○	
3	1～2	116541	応用動物科学コース実験2	2	コース教員	応用動物科学			○	
3	1～2	116542	応用動物科学コース実験3	2	コース教員	応用動物科学			○	
3	1	116537	Animal Life Science (動物生命科学)	1	畑生ほか	応用動物科学				
3・4	1(隔年)	116433	公衆衛生学1	1	担当教員(隔年開講)	応用動物科学(R09)			○	
3・4	2(隔年)	116434	公衆衛生学2	1	担当教員(隔年開講)	応用動物科学(R09)			○	
3・4	夏季集中	116435	家畜伝染病学(家畜疾病学)	1.5	非常勤(隔年集中)	応用動物科学(R09)			○	
3	3	116436	食品衛生学	1.5	荒川	応用動物科学			○	
3	3	116566	資源管理学	1	駄田井	環境生態学				○
3	1	116445	森林保全学2	1	廣部	環境生態学				○
3	1	116446	環境生態学コース実験3-1	1	コース教員	環境生態学				○
3	2	116447	環境生態学コース実験3-2	1	コース教員	環境生態学				○
3	1	116448	環境生態学コース実験4-1	1	コース教員	環境生態学				○
3	2	116449	環境生態学コース実験4-2	1	コース教員	環境生態学				○
3	1	116567	環境社会学	1	本田	環境生態学				○
3	1	116582	農村地理学	1	金	環境生態学				○
3	夏季集中	115607	農業協同組合論	1	大仲	環境生態学				○
3・4	夏季集中	116451	農業生産施設学	1.5	非常勤(隔年集中)	環境生態学(R10)				○
2・3	夏季集中	116450	林学概論	1.5	非常勤(隔年集中)	環境生態学(R09)				○
3	夏季集中	115379	インターンシップ	2	担当教員	共通				
3	3	116404	農芸化学コース実験3	2	コース教員	農芸化学	○			
3	3	116455	生物有機化学1	1	泉	農芸化学	○			
3	4	116456	生物有機化学2	1	泉	農芸化学	○			
3	3	116457	食品化学1	1	中村(宜)	農芸化学	○		○	
3	4	116458	食品化学2	1	中村(宜)	農芸化学	○		○	
3	3	116459	生理活性物質化学1	1	仁戸田	農芸化学	○		○	
3	4	116460	生理活性物質化学2	1	仁戸田	農芸化学	○		○	
3	3	116461	細胞生化学1	1	宗正・前田	農芸化学	○			
3	4	116462	細胞生化学2	1	前田・宗正	農芸化学	○			
3	3	116463	環境微生物学1	1	金尾	農芸化学	○			

開 講 年 次	開 講 学 期	講 義 番 号	授 業 科 目 名	単 位	教 員 名	提 示 コ ー ス 等	農 芸 化 学	応 用 植 物 科 学	応 用 動 物 科 学	環 境 生 態 学
3	4	116464	環境微生物学2	1	金尾	農芸化学	○			
3	3	116465	植物保護学1	1	松井	応用植物科学		○		
3	4	116466	植物保護学2	1	豊田	応用植物科学		○		
3	3	116467	農産物利用学1	1	担当教員	応用植物科学		○		
3	4	116468	農産物利用学2	1	担当教員	応用植物科学		○		
3	3	116568	施設園芸学	1	遠藤	応用植物科学		○		
3	4	116569	スマート農業論	1	安場ほか	応用植物科学		○		
3	3～4	116526	応用植物科学コース実験3	2	コース教員	応用植物科学		○		
3	3	116419	実験動物科学1	1	辻	応用動物科学			○	
3	4	116420	実験動物科学2	1	辻	応用動物科学			○	
3	3	116473	基礎昆虫学	1	岡田	環境生態学				○
3	3	116583	樹木生理生態学	1	三木	環境生態学				○
3	4	116491	陸上生態学	1	兵藤・宮崎	環境生態学				○
3	3	116492	農業政策論1	1	大仲	環境生態学		○		○
3	4	116493	農業政策論2	1	大仲	環境生態学		○		○
3	4	116481	水系保全生物学	1	福田(宏)	環境生態学				○
3	4	116570	開発経済学	1	生方	環境生態学				○
3・4	集中	116482	昆虫科学	1.5	非常勤(隔年集中)	環境生態学(R09)				○
4	1	116483	有機構造解析学1	1	仁戸田	農芸化学	○			
4	2	116484	有機構造解析学2	1	仁戸田	農芸化学	○			
4	1	116485	生体高分子解析学1	1	田村ほか	農芸化学	○			
4	2	116486	生体高分子解析学2	1	田村ほか	農芸化学	○			
2	1	116487	職業指導概説1-1	1	非常勤	共通(教職科目)				
2	2	116488	職業指導概説1-2	1	非常勤	共通(教職科目)				
2	3	116489	職業指導概説2-1	1	非常勤	共通(教職科目)				
2	4	116490	職業指導概説2-2	1	非常勤	共通(教職科目)				
2	夏季集中	115524	生殖補助医療学	2	担当教員	生殖補助医療技術キャリア養成特別コース				
3	通年集中	115527	生殖補助医療技術実習Ⅰ	2	担当教員	生殖補助医療技術キャリア養成特別コース				
4	夏季集中	115528	生殖補助医療技術実習Ⅱ	1	担当教員	生殖補助医療技術キャリア養成特別コース				
4	夏季集中	115529	生殖補助医療技術実習Ⅲ	2	担当教員	生殖補助医療技術キャリア養成特別コース				
3	3～4	116571	国際農学概論	2	担当教員	農学部「地域創生を先導する国際創農プログラム」(INAF) 特別コース				
1	1～2	116594	INAFセミナー1-1	0.5	担当教員	農学部「地域創生を先導する国際創農プログラム」(INAF) 特別コース				
1	3～4	116595	INAFセミナー1-2	0.5	担当教員	農学部「地域創生を先導する国際創農プログラム」(INAF) 特別コース				
2	1～2	116596	INAFセミナー2-1	0.5	担当教員	農学部「地域創生を先導する国際創農プログラム」(INAF) 特別コース				
2	3～4	116597	INAFセミナー2-2	0.5	担当教員	農学部「地域創生を先導する国際創農プログラム」(INAF) 特別コース				
3	1～2	116598	INAFセミナー3-1	0.5	担当教員	農学部「地域創生を先導する国際創農プログラム」(INAF) 特別コース				
3	3～4	116599	INAFセミナー3-2	0.5	担当教員	農学部「地域創生を先導する国際創農プログラム」(INAF) 特別コース				
4	1～2	116600	INAFセミナー4-1	0.5	担当教員	農学部「地域創生を先導する国際創農プログラム」(INAF) 特別コース				
4	3～4	116601	INAFセミナー4-2	0.5	担当教員	農学部「地域創生を先導する国際創農プログラム」(INAF) 特別コース				

[付記1] 「コース演習2」は農芸化学英語、応用植物科学英語、応用動物科学英語、環境生態学英語を含む。

[付記2] 応用植物科学コース実験1～3は以下の内容を含む。

植物繁殖学実験・植物形態学実験・植物成分分析実験
植物病理学実験・遺伝子工学実験・酵素学実験
植物生理学実験・植物機能学実験・植物遺伝学実験

[注] ① 開講学期は、都合により、変更する場合がある。

なお、開講年次欄の2・3年次、3・4年次とあるものは隔年開講を示している。

また、開講学期欄の1～2、3～4、1～4は複数学期で続けての開講を示している。

② 提示コース欄のFSCは、山陽圏フィールド科学センターを、(R08)、(R09)、(R10)は開講年度を示している。

③ 他大学との単位互換科目として以下の科目を夏季休業中に履修できる。各科目の概要、履修要件、実施時期等詳細は別途掲示するので希望者は各自注意すること。

・里山フィールド演習	鳥取大学
・果樹園芸の里フィールド演習	愛媛大学
・里海フィールド演習	広島大学
・森林フィールド演習	高知大学
・森・里・海フィールド演習	島根大学
・酪農フィールド科学演習	広島大学
・作物生産科学フィールド演習	山口大学
・臨海資源科学演習	広島大学
・食品資源フィールド科学実習	県立広島大学
・傾斜地フィールド演習	香川大学
・スマート酪農科学演習	広島大学

④ インターンシップは、在学中に就業体験(現場体験)を行うことにより、単位を認定する科目である。

受講希望者は掲示に注意すること。

⑤ 職業指導概説1-1、職業指導概説1-2、職業指導概説2-1、職業指導概説2-2は、卒業要件単位には含まれない。

⑥ 農学部からグローバル・ディスカバリー・プログラムに提供する以下の科目について、農学部正規生は2年次3学期から履修することができる。ただし、各科目開講前に、TOEIC L & Rで600点以上のスコア、またはそれに相当するLinguaskill General 4技能等のスコアを修得済みでなければ履修することができない。履修前にスコアシートの写を農学部教務学生担当窓口まで提出すること。(スコア換算については、農学部教務学生担当窓口にお問い合わせのこと。)

- ・Vegetable and Flower Science (野菜と花の科学)
- ・Plant Disease and Control (植物の病気と防除)
- ・Fruit Science (果実の科学)
- ・Crop Science and Production (作物の科学と生産)
- ・Animal Production Science (動物生産科学)
- ・Food and Nutrition Science (食品・栄養科学)
- ・Animal Life Science (動物生命科学)
- ・Crop Genetics and Breeding (作物の遺伝と育種)

⑦ 履修課程表の規程にかかわらず、開講されない授業科目がある場合には、開講学期の開始までに公示する。

5. 履修についての説明

1 履修方法と卒業所要単位

(1) 全学共通科目及び英語科目

1 年次から 4 年次にかけて「履修課程表 1」（13 ページ）に掲げる全学共通科目及び英語科目を以下に定める様に履修し修得する。

1) 全学共通科目

(イ) 課題探究科目

- ・課題探究科目として知の探研（3 単位）を必修とする。

(ロ) 情報・数理・データサイエンス

- ・情報教育科目として情報処理入門 1（1 単位）を必修とする。
- ・数理・データサイエンス科目として数理・データサイエンスの基礎（1 単位）を必修とする。

(ハ) 健康・スポーツ科学

- ・健康・スポーツ科学科目及びスポーツ演習科目は 2 単位まで卒業要件単位として算入可能とする。

(ニ) 市民性と異文化理解

2) 英語科目

(イ) 必修科目

- ・コミュニケーション英語（S & L），コミュニケーション英語（R&W），
アカデミック英語（プレゼンテーション），
アカデミック英語（ライティング）を必修とする。

(ロ) 選択科目

- ・高年次英語から 1 単位選択必修とする。

※別表「外部検定試験による単位認定基準」（23～24 ページ）に掲げる外国語科目については、外部検定試験の結果により単位を認定することができる。単位の認定を希望する者は、教務学生担当で指示を受けること。

外部検定試験による単位認定基準

外国語の種類	単位認定の対象とする外部検定試験	単位認定基準	単位認定の対象とする授業科目の範囲	認定可能な単位数の上限
英語	実用英語技能検定（英検）	1級（2630点以上）	コミュニケーション英語（S&L） コミュニケーション英語（R&W）	4単位
	国際連合公用語英語検定試験（国連英検）	A級		
	TOEFL iBT	82点以上		
	IELTS	6.5点以上		
	Linguaskill General Speaking/Listening平均	170点以上	コミュニケーション英語（S&L）	2単位
	TOEIC L&R TOEIC S&W	ListeningスコアとSpeakingスコアの合計 615点以上		
	Linguaskill General Reading/Writing平均	170点以上	コミュニケーション英語（R&W）	2単位
	TOEIC L&R TOEIC S&W	ReadingスコアとWritingスコアの合計 580点以上		
	実用英語技能検定（英検）	準1級（2304点以上）	以下のいずれか コミュニケーション英語（S&L） コミュニケーション英語（R&W）	2単位
	TOEFL iBT	72点以上		
	IELTS	6.0点以上		
	TOEIC L&R	800点以上	高年次英語	1単位
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験（独検）	2級以上	ドイツ語初級Ⅰ－1 ドイツ語初級Ⅰ－2 ドイツ語初級Ⅱ－1 ドイツ語初級Ⅱ－2 ドイツ語中級	4単位まで
		3級	ドイツ語初級Ⅰ－1 ドイツ語初級Ⅰ－2 ドイツ語初級Ⅱ－1 ドイツ語初級Ⅱ－2 ドイツ語中級	3単位まで
		4級	ドイツ語初級Ⅰ－1 ドイツ語初級Ⅰ－2 ドイツ語初級Ⅱ－1 ドイツ語初級Ⅱ－2	2単位まで
		5級	ドイツ語初級Ⅰ－1 ドイツ語初級Ⅰ－2	1単位まで
フランス語	実用フランス語技能検定試験（仏検）	3級以上	フランス語初級Ⅰ－1 フランス語初級Ⅰ－2 フランス語初級Ⅱ－1 フランス語初級Ⅱ－2 フランス語中級	4単位まで
		4級	フランス語初級Ⅰ－1 フランス語初級Ⅰ－2 フランス語初級Ⅱ－1 フランス語初級Ⅱ－2	2単位まで
		5級	フランス語初級Ⅰ－1 フランス語初級Ⅰ－2	1単位まで

中国語	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ） ※5級・6級については、180点以上のスコアを獲得した場合、単位認定の対象とする。	4級以上	中国語初級Ⅰ－1 中国語初級Ⅰ－2 中国語初級Ⅱ－1 中国語初級Ⅱ－2 中国語中級 中国語上級	4単位まで
	中国語検定試験（中検）	2級以上		
	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	3級	中国語初級Ⅰ－1 中国語初級Ⅰ－2 中国語初級Ⅱ－1 中国語初級Ⅱ－2 中国語中級	3単位まで
	中国語検定試験（中検）	3級		
	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	2級	中国語初級Ⅰ－1 中国語初級Ⅰ－2 中国語初級Ⅱ－1 中国語初級Ⅱ－2	2単位まで
	中国語検定試験（中検）	4級		
韓国語	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	1級	中国語初級Ⅰ－1 中国語初級Ⅰ－2	1単位まで
	中国語検定試験（中検）	準4級		
韓国語	韓国語能力試験	2級以上	韓国語初級Ⅰ－1 韓国語初級Ⅰ－2 韓国語初級Ⅱ－1 韓国語初級Ⅱ－2 韓国語中級	4単位まで
		1級	韓国語初級Ⅰ－1 韓国語初級Ⅰ－2 韓国語初級Ⅱ－1 韓国語初級Ⅱ－2	2単位まで
スペイン語	スペイン語技能検定	4級以上	スペイン語ベーシック1～4	4単位まで
		5級	スペイン語ベーシック1～4	2単位まで
		6級	スペイン語ベーシック1及び2	1単位まで
イタリア語	実用イタリア語検定	3級以上	イタリア語ベーシック1～4	4単位まで
		4級	イタリア語ベーシック1～4	2単位まで
		5級	イタリア語ベーシック1及び2	1単位まで

備考1 英語の単位認定の対象となるのは、入学以降に受検した各試験のスコアとする。

備考2 Linguaskill Generalのスコアについては、「180+」のスコアは180点として扱い、「NR」のスコアは0点として扱う。

備考3 Linguaskill Generalのスコアは、指定された2技能の平均値を用いる。その際、少数点が生じる場合は小数点以下を切り下げる。

備考4 コミュニケーション英語（S&LならびにR&W）の認定には、TOEIC L&R（満点990点）とTOEIC S&W（満点400点）の両試験を受験する必要がある。

備考5 高年次英語の単位認定の対象となるTOEIC L&Rのスコアは、2または3年次に岡山大学が実施する全学共通TOEICテスト（または、それ以降に受検したTOEICテスト）の結果のみ有効とする。

(2) 専門教育科目

1 年次生は、農業科学の全容を概括的に把握するための専門基礎科目と他学部で扱う専門の考え方を学ぶための全学交流科目を履修する。更に 2 年次、3 年次と逐次より専門的な科目を履修することになるが、指導教員との相談のもとに個々の学生に応じたカリキュラムが作成され、それに従って履修できるよう授業科目を開設している。

(イ) 全学交流科目：「履修課程表 2 - a」(14 ページ)

- ・自然系交流科目から 1 単位必修，社会系交流科目，生命系交流科目及び自然系交流科目から 3 単位選択必修の計 4 単位を修得すること。
- ・卒業に必要な単位を越えて修得した単位数は，卒業要件外の単位数となる。

(ロ) 専門基礎科目

- ・「履修課程表 2 - b」(14 ページ)に掲げる専門基礎科目のうち必修科目 18 単位を含め計 24 単位を履修する。
- ・卒業に必要な単位を越えて修得した単位数は，コース科目自由選択科目の単位数とすることができる。

(ハ) 専門科目

①必修科目

- ・「履修課程表 2 - c」(15 ページ)に掲げる専門科目（必修科目）の 25 単位を必修とする。
- ・INAF プロジェクトを履修する場合，不足分の 8 単位は他の専門科目修得をもって代替を可能とする。

②コース科目

- ・コース科目選択必修科目は，「履修課程表 2 - d」(16～21 ページ)に掲げる専門科目（コース科目）のうち，当該コースを専攻する学生が各コースで指定した授業科目（○印）のうちから 18 単位を選択必修とする。
- ・卒業に必要な単位を越えて修得した科目は，コース科目自由選択科目の単位数とすることができる。
- ・コース科目自由選択科目は，「履修課程表 2 - d」に掲げる専門科目のうち，当該コースを専攻する学生が各講座で指定したコース科目選択必修科目以外の科目から 33 単位を選択するものとする。

(3) 卒業に必要な単位

卒業に必要な単位は，下記のとおりとする。

科 目 区 分 等			単位数		
全学共通科目	課 題 探 求		11		
	情 報・数 理 デ ー タ サ イ エ ン ス				
	健 康・ス ポ ー ツ 科 学				
	市 民 性 と 異 文 化 理 解				
英語科目	必 修 英 語		8		
	選 択 英 語		1		
計			20		
専門教育科目	全学交流科目			4	
	専門基礎科目	必 修 科 目		18	
		選 択 必 修 科 目		6	
	専 門 科 目	必 修 科 目		25	
		コース科目	選 択 必 修 科 目		18
			自 由 選 択 科 目		33
	計			104	
合 計			124		

※ INAF 国費外国人留学生は，上記に加え，INAF 特別コース（37 ページ）を修了することも卒業に要する。

2 農学部における成績評価基準

- (1) 成績評価は授業の教育目標に対する学習者の到達度を見るものであり、学習者が学習意欲を高め、評価に対する不公平感を持たないように、その目標と評価の方法を明確にしなければならない。
- (2) 評価は授業の途中でも行い、その結果をフィードバックさせることによって授業方法を改善しながら学習者の目標への到達度を高めるようにする。
- (3) 評価は授業の形態（講義、実験、実習、演習等）に対応して多面的で多様な方法によって行う。
講義は期末テストに偏重することなく、課題レポート、中間テスト、小テスト、出席状況などを評価の方法とする。実験、実習は出席状況、技術の修得度、受講態度、結果のとりまとめレポート、期末テスト、中間テスト、小テストなどを評価の方法とする。演習は出席状況、授業中の発言回数・内容、受講態度、課題の達成度などを評価の方法とする。
- (4) 授業の教育目標とその評価のために採用する具体的な評価方法は個々の授業についてのシラバスに明記する。
- (5) 評語及びその基準等は、次の表のとおりとする。

評語	評点（整数）	基準等
A +	90～100点	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
A	80～89点	到達目標を達成し、優秀な成果を収めている。
B	70～79点	到達目標を達成し、良好な成果を収めている。
C	60～69点	到達目標を概ね達成している。
F	0～59点	到達目標を達成していない。（単位を授与しない。）
W	付さない	履修登録後において、履修取消手続きを行った授業科目
認定	付さない	① 入学前の既修得単位及び転学、編入学等の既修得単位について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を授与する場合 ただし、本学において入学前に修得した単位は、評点により認定することができる。 ② 他の大学等において履修し修得した授業科目の単位又は大学以外の教育施設等における学修について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし単位を授与する場合で、評点により評価しがたい場合
修了	付さない	本学の開設する授業科目のうち、授業の特殊性に鑑み、評点により評価しがたいもの、若しくは一定の到達度をもって評価し単位を授与する場合
未修得	付さない	修了の評語をもって合格の評価とする授業科目で、不合格（単位を授与しない。）とする場合

グレード・ポイント（以下「G P」という。）は、次の算式により算出するものとし、小数第1位まで求めるものとする。ただし、評語がFの授業科目のG Pは0とすることとする。なお、評語が、W、認定、修了及び未修得の授業科目にはG Pを付与しない。

$$G P = (\text{評点} - 55) / 10$$

- (6) 農学部専門教育科目の成績評価についての異議申立手続については、「8 成績評価に関する質問・疑問の受付について」（41ページ）を参照のこと。

3 分属について

学年を追って専門分野の理解を深めるために、2年次開始時に4つの教育コースのいずれかに分属する。
さらに、各教育コースにおいて、以下の各学期開始時には卒業論文を履修する研究ユニットに分属する。

農芸化学コース : 4年次1学期

応用植物科学コース : 3年次1学期

応用動物科学コース : 3年次3学期

環境生態学コース : 3年次1学期

なお、教育コース、研究ユニットへの分属の決定は制度に則った指導による。

(1) 分属学生数

教育コースおよび研究ユニット毎に、分属する学生の基準数を決める。

分属基準学生数の算出はそれぞれの所属教員数と総学生数を基礎とする。

(2) 教育コース分属

教育コース分属の決定は指導によって行う。しかし、特定のコースで志望者がその基準数を超えたときには、適当な方法で選別を行う。全ての学生はいずれかのコースに分属するものとし、未分属は認めない。但し、入学年度に休学した学生は次年度入学生と共に分属を行う。

なお、教育コースに分属するためには、農学部履修細則第6条に示す履修条件を満たしていなければならない。履修条件を満たしていない学生は、次年度への進級ができないものとする。

(3) 研究ユニットへの分属

研究ユニットへの分属の決定は教育コース内での指導による。なお、特別の事情がない限り、コース間での移動は認めない。

(4) 選別の基準および方法

それぞれの段階で選別を行う場合、既履修の専門基礎科目、専門科目の学科必修科目、コース科目の成績のほか、面接などを採用し、原則として試験は行わない。

(5) その他

4年次において、特別の事情がある場合には、他研究ユニットによる卒業論文指導が認められることがある。この場合、原則として所属研究ユニットは変わらない。

6. 受 験 心 得

受験にあたっては、次の各事項に留意すること。

1. 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
2. 入室後は監督者の指示に従うこと。
3. 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。ただし、学生証を紛失または忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
4. 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具およびその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板（物入れ）には何も置かないこと。
5. 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、オーディオプレイヤー等の電子機器類は、必ず電源を切っておくこと。ただし、監督者が受験中に使用を許可する電子機器類は除く。
6. 答案用紙には、所属学部名、学生番号および氏名等の必要事項を必ず記入すること。
7. 試験開始後20分を経過するまでは退出できない。
8. 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
9. 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、または監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて退室すると当該授業科目の単位は認定しない。
10. 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。

なお、試験において不正行為を行った、不正行為を行おうとした、または不正行為を幫助した者に対しては、学則第58条により厳重な懲戒処分を行う。

また、不正行為が判明した場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学生が当該学期に履修登録している全ての授業科目（学期をまたがって履修する授業科目を含む。）の単位は認定しない。

試験による不正行為は次のとおりである。ここで、試験時間中とは、解答の開始から答案の提出までをいう（以下「試験時間中」という。）。。

- 1) 代理（替玉）受験をしたり、させたりすること。
- 2) 試験時間中に、使用が許可されていないノート及び参考書等並びに電子機器類
その他試験問題の参考となり得る物品を参照すること又は使用すること。
- 3) 試験時間中に、言語、動作又は電子機器類等により他人に教示すること又は教示を受けて解答に利用すること。
- 4) 答案を交換すること。
- 5) 試験時間中に、他の学生の答案をのぞき見すること。
- 6) 試験時間中に、使用が許可されたノート及び参考書等並びに電子機器類を貸借すること。
- 7) 監督者の注意又は指示に従わないこと
- 8) レポートにおいて、剽窃、改ざん及び捏造などすること。
- 9) その他、試験の公正な実施を妨げる行為をすること。

【岡山大学学則からの抜粋】

(懲戒)

第58条 本学の諸規則に違背し、又は学生の本分に反する行為がある者は、所定の手続きを経て、学長又は学長の委任を受けた学部長が懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学及び訓告とし、必要な事項は別に定める。

【岡山大学学生に係る懲戒等に関する規則からの抜粋】

第4条 懲戒の対象となる行為は、次の各号の一に該当する場合とする。

- 一 本学の秩序を乱し、授業・研究等本学の運営を妨げるような行為を行った場合
- 二 学内外において違法行為を行った場合
- 三 本学が実施する試験において、不正行為を行った場合、不正行為を行おうとした場合
又は監督者の注意若しくは指示に従わない場合で特に悪質と判断された場合
- 四 本学の諸規則等に違反する行為を行った場合
- 五 その他学生の本分に反する行為を行った場合

◆ その他注意事項 ◆

通常講義内での出席確認・レポート提出などで、不正行為があると認められた者に対しても、厳重な懲戒処分を行う場合がある。

7. 履 修 手 続

(1) 履修登録について

学部から示される履修課程表及び時間割，シラバス等に基づいて，定められた期日までに履修しようとする授業科目を各自のパソコンから履修登録をしなければならない。

履修の手続きについては，その都度掲示するので，掲示板に注意すること。

(2) 教育学部専門教育科目の履修

教育学部専門教育科目（教職免許科目）の履修については，その都度掲示するので，指定された期日までに手続きすること。

(3) 集中講義

集中講義の履修については，その都度掲示するので，指定された期日までに手続きすること。

8. 大学院への進学

大学院への進学については，それぞれの年度に発表される募集要項によること。

9. 諸資格および教育職員免許状の取得

- (1) **危険物取扱者試験甲種受験資格**：危険物取扱者には甲種，乙種，丙種があり，その中で甲種は消防法に定められている全ての危険物の取扱いが可能な資格である。化学関連の授業科目を15単位以上修得した場合に受験資格がある。試験は各都道府県で実施されている。岡山県の問い合わせ先は消防試験研究センター岡山県支部（086-227-1530）である。詳細については教務学生担当に問い合わせること。

- (2) **食品衛生管理者・食品衛生監視員**：この資格を取得するためには，「農学部履修細則」（10～11ページ）及び「食品衛生資格取得コース履修科目表」（31ページ）をよく承知しておくこと。

- ① **食品衛生管理者**とは，当該の食品又は添加物の製造及び加工を衛生的に管理するための専門資格であり，当該の施設ごとに配置することが義務づけられている。

この資格は，卒業後に衛生管理を必要とする施設等に就職してから，当該の都道府県に申請することにより取得できる。

- ② **食品衛生監視員**とは，国，都道府県及び保健所を設置する市で，食品衛生に関する監視，指導等に従事する職員（国家及び地方公務員）のことである。詳細については国又は都道府県等の募集要項を参照されたい